

令和 8 (2026) 年度文部科学省委託 現職日本語教員研修プログラム開発・実施事業
日本語教師【中堅】に対する研修

公益社団法人日本語教育学会
日本語教育学会の人材, 知財, ネットワークを活かした
中堅日本語教師のための研修プログラム(略称: JCN 研修)
中堅研修コース
募集要項

中堅研修コース

I. 研修について

1. 本研修の趣旨・目的

公益社団法人日本語教育学会は、令和 8 (2026) 年度文部科学省「現職日本語教員研修プログラム開発・実施事業」を受託し、中堅日本語教師のための研修（以下、「中堅研修コース」）を実施いたします。

中堅研修コースでは、文化庁（2019）『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』で示された日本語教育人材の養成・研修における「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」および「研修における教育内容」を踏まえた内容を提供します。その目的は、これまでに自らが行ってきた日本語教育実践を振り返り、俯瞰し、それらを理論的・メタ的に位置づける活動を通じて、これからの日本語教育の如何なる多様化にも対応し、日本語学習環境を整えることができる日本語教師【中堅】を育成することです。日本語教育学会の様々な人材（Jinzai）、知財（Chizai）、ネットワーク（Network）を活用してオンラインで実施します。

2. 研修実施期間

令和 8 (2026) 年 8 月 1 日（土）～令和 9 (2027) 年 1 月 24 日（日）

3. 実施方法

3.1. 遠隔による研修の実施

本研修は、全てオンラインで実施します。「同期型研修」と「非同期型研修」を組み合わせた複合型の学習形態です。

「同期型研修」 Web 会議システムによるスクーリング

使用ツール：Zoom, Google Slide など

「非同期型研修」オンデマンド動画の視聴、オンラインツールを利用したチーム内での意見交換、課題

使用ツール：LINE WORKS, Google ドライブ

詳細については、事前準備期間にお知らせします。

3.2. 研修の特徴

(1) 研修テーマ

「つなげる・つながることを通じた実践の改善と教師の成長」を研修テーマとし、受講生が各現場から見出した具体的な課題を以下のような視点から整理、検討します。

(1) 日本の在留外国人施策・制度

- (2) 関係府省庁による日本語教育施策
- (3) 日本語の試験
- (4) 国内外の多様な日本語教育事情
- (5) 学習者の社会参加
- (6) 異文化間トランス
- (7) 言語学習・教育の情意的側面
- (8) 日本語教育プログラムおよび教育環境デザイン
- (9) 目的・対象別日本語教育法
- (10) 評価法
- (11) 異領域との協働
- (12) 日本語教育プログラムにおける ICT の活用・著作権
- (13) マネジメント能力
- (14) 事務・管理能力
- (15) 人材育成能力
- (16) ネットワーキング力
- (17) その他

(2)各自の課題を自ら設定し、自ら解決に向けて取り組む

各自の課題や解決方法を誰かに教えてもらうのではなく、自ら課題を設定し、チームで解決にあたります。そのために、現場を分析して理解を深め、他者とのつながりの中で解決の糸口を自ら発見し課題に取り組みます。その過程を通じて、日本語教師としての成長と専門性のさらなる充実を目指します。

(3)チームで研修活動を行う

本研修では、現場の課題を自身の実践領域の中だけではなく、中堅教師として他の領域と関連づけて考えるために、他者とのつながりと協働を重視します。そのために、受講生は応募時に提出した自らの課題に対し、一人で考えるだけでなく、所属機関や専門分野を超えたチームメンバーとの協働を通してアプローチしていきます。このように様々なリソースを組織や分野を横断して活用しながら課題解決を目指すことで、つながることの重要性とダイナミズムを経験します。

(4)日本語教育学会のリソースを活用する

研修生は、各チームの課題を解決するために、日本語教育学会の様々な人材（Jinzai）、知財（Chizai）、ネットワーク（Network）を活用して必要な情報を収集、発信、共有します。

(5)6 期に分けて実施

令和 8（2026）年 8 月から令和 9（2027）年 1 月までの約 6 ヶ月の研修期間を、6 期に区分して実施します。各期は、「講義」と「演習」から構成され、それぞれに Zoom によるスクーリング（同期型研修）が行われます。さらに、研修全体を通してオンラインツールを利用した課題の遂行と意見交換が並行して行われます。その他、1 月に修了レポートの提出が求められます。

(6)オンラインツールを利用した非同期型研修

全研修期間を通じ、チャットツール（LINE WORKS）とオンラインストレージ（Google ドライブ）を利用して、チームでの意見交換、情報収集、成果報告などを行います（非同期型研修）。チームにはそれぞれ研修担当の講師がアドバイザーとして付き添い、伴走します。必要に応じて

文献や参考資料などを紹介し、意見交換を行います。アドバイザーもリソースの一つです。どのように活かして課題解決につなげるか、人的リソースの有効的な活用を体験します。具体的には、オンラインツールを利用して次のことを行います。

1. 各種課題の提出
2. チームによる進捗状況報告
3. 課題解決方法の検討と決定
4. 研修成果発表会に関する協力・連絡
5. その他、個別のネットワーキングや情報共有

(7)提出物

受講生は、研修期間を通じて以下の成果物を提出しなければなりません。

1. 「講義の課題」（講義動画/ライブ講義に関する理解の確認と考察の報告：個人で提出）
2. 「演習の課題」（個人やチームでの課題解決の進捗報告：個人で提出）
3. 「振り返りシート」（スクーリングの振り返り：個人で提出）
4. 「研修成果発表会資料」（研修成果発表会のための資料：チームで提出）
5. 「修了レポート」（研修終了時の各自の学びの総括：個人で提出）
6. 「自己評価票」（中堅の資質・能力や研修に関する評価：個人で提出）

4. 実施内容

4.1. 研修の進め方

(1)事前準備

事前準備としてガイダンス動画の事前視聴等に取り組みます。

(2)講義・演習

各期は原則として【講義】と【演習】，【振り返り】の組み合わせで構成します。総単位数は40単位で，【講義】17単位，【演習】18単位，【振り返り】5単位です（1単位45分）。【講義】【演習】【振り返り】の1期あたりの内容と単位数は以下の通りです。

1. 【講義】（4単位）：講義（講義動画/ライブ講義）の視聴（1単位）＋講義課題の遂行（1単位）＋スクーリング（2単位）
 - ・ 講義では、動画教材による講義をスクーリング前に各自で視聴（講義動画），あるいは、同期型研修でのライブ講義に参加します。
 - ・ 講義視聴後，スクーリングのアドバイザーが指定する課題を遂行します。
 - ・ 課題提出後，Zoomによるスクーリングで課題の振り返りや発展的学習を行います。
2. 【演習】（3単位）：事前課題の遂行（1単位）＋スクーリング（2単位）
 - ・ スクーリングの前に事前課題として，課題解決の進捗状況を報告します。
 - ・ Zoomによるスクーリングで課題の共有や議論などを行い，自身の研修課題の解決を図ります。
3. 【振り返り】（1単位）
 - ・ スクーリングの議論を踏まえてチーム内での振り返りや事後課題を遂行します。
 - ・ スクーリングで行った議論をオンラインツールを用いて継続します。

(ただし、1期は講義1(ライブ講義)の聴講1単位+スクーリング2単位、振り返りと非同期活動1単位の計4単位、6期は研修成果発表会への参加によって4単位となります。)

なお、本研修では講義動画の視聴等を行いますが、全体としては講義受講型の研修ではなく、参加者が自らの課題を他の参加者との協働によって解決していく課題解決型の研修であることに十分ご留意ください。

<中堅研修コース:各期の内容と単位数> * []内の数字は単位数

期	1期 [4]	2期 [8]	3期 [8]	4期 [8]	5期 [8]	6期 [4]
内容	講義 講義1 ライブ [1]	講義の課題[1] 講義2動画[1] スクーリング[2]	講義の課題[1] 講義3動画[1] スクーリング[2]	講義の課題[1] 講義4動画[1] スクーリング[2]	講義の課題[1] 講義5動画[1] スクーリング[2]	-
	演習 スクー リング[2]	演習の課題[1] スクーリング[2]	演習の課題[1] スクーリング[2]	演習の課題[1] スクーリング[2]	演習の課題[1] スクーリング[2]	研修成果 発表会 [4]
	振 り 返 り	振り返り と 非同期 活動[1]	振り返り と 非同期活動[1]	振り返り と 非同期活動[1]	振り返り と 非同期活動[1]	-

4.2. 講義(講義動画/ライブ講義)の研修内容

	テーマ	担当講師	
事前 動画	(1)コースガイダンス (2)研究倫理と著作権 (3)文献検索	JCN アドバイザー	動画 3本
講義1	日本語教師における「中堅」とは	JCN アドバイザー	ライブ 講義
講義2	日本語教師と「熟達」(1)~(3)	横溝紳一郎(西南学院大学)	動画 3本
講義3	「実践を記述する」ということ	石黒広昭(立教大学)	動画 3本
講義4	課題解決のアプローチ(1)~(3)	石黒広昭(立教大学)	動画 3本
講義5	「実践」を振り返る/ 異なる実践をつなげる・つながる	横溝紳一郎(西南学院大学)	動画 3本

4.3. 2026 年度中堅研修コースのスケジュールと提出物の締切

基本的に以下のスクーリングおよび研修成果発表会の全てに参加することと、全ての提出物を期限内に提出することが求められます。

 は、スクーリングの実施日時。 は、個人/チームの課題の提出期限。日時はいずれも日本時間。

月	日	曜日	時間	研修	内容/提出物(★)
7				事前準備	ガイダンス動画の視聴
8	1	土	13:00-16:30	スクーリング 1	オリエンテーション 講義 1 (ライブ講義) と 講義に関する意見交換
8	9	日	17:00	課題の遂行 講義の視聴	★振り返りシート ★自己評価票
8	23	日	17:00		講義 2 の視聴 ★講義・演習の課題
8	29	土	13:00-16:30	スクーリング 2	講義 2 に関する意見交換 各自の課題に関する意見交換
9	5	日	17:00	課題の遂行 講義の視聴	★振り返りシート
9	20	日	17:00		講義 3 の視聴 ★講義・演習の課題
9	26	土	13:00-16:30	スクーリング 3	講義 3 に関する意見交換 各自の課題に関する意見交換
10	4	日	17:00	課題の遂行 講義の視聴	★振り返りシート
10	25	日	17:00		講義 4 の視聴 ★講義・演習の課題
10	31	土	13:00-16:30	スクーリング 4	講義 4 に関する意見交換 各自の課題に関する意見交換
11	8	日	17:00	課題の遂行 講義の視聴	★振り返りシート ★自己評価票
11	29	日	17:00		講義 5 の視聴 ★講義・演習の課題
12	5	土	13:00-16:30	スクーリング 5	講義 5 に関する意見交換 各自の課題に関する意見交換
12	13	日	17:00	課題の遂行	★振り返りシート
12	20	日	17:00		★演習の課題(チームの課題に関して、研修成果発表会の資料を作成する)
12	26	土	13:00-16:30	研修成果発表会	各チームの課題達成状況の報告
1	24	日	17:00	課題の遂行	★修了レポート(研修での学びを個人でまとめる) ★ピアフィードバックのための仮提出 1回 ★修正を経たレポートの本提出 1回 ★自己評価票

5. 担当アドバイザー

有田佳代子（帝京大学），石澤徹（東京外国語大学），犬飼英男（首都日進国際学院），宇佐美洋（専修大学），牛窪隆太（東洋大学），大平幸（四国大学），香月裕介（神戸学院大学），勝部三奈子（大阪大学），加藤林太郎（神田外語大学），鴈野恵（筑紫女学園大学），菊池領子（R Production Inc.），惟任将彦（大阪 YMCA 学院），佐々木彩乃（友国際文化学院），武田俊一（フリーランス），佐藤正則（Japan Language School 横浜），ツオイ・エカテリーナ（大分大学），時本美穂（サピエンツァ・ローマ大学），布尾勝一郎（立命館アジア太平洋大学），古川嘉子（帝京大学），間瀬尹久（HLA 日本語学校），三代純平（武蔵野美術大学），守時なぎさ（リユブリャナ大学），横山紀子（都立飛鳥高等学校）

II. 受講者の募集について

1. 募集人数

90 名程度

2. 応募資格と応募条件

(1) 応募資格

中堅日本語教師として十分な経験を有する者（目安として 3 年以上の日本語教育歴がある者）。

(2) 応募条件

次の 7 つを全て満たすこと。

1. 本研修の趣旨および本研修が講義受講型ではなく、日々の実践の中にある課題を持ち寄り、参加者間での協働により課題解決を目指す課題解決型の研修であることを理解していること。
2. 同期型研修に出席できること。原則として 6 回のスクーリング（研修成果発表会を含む）の全てに参加すること。
3. オンラインによる同期型研修／非同期型研修を受講できる通信環境とスキルを有すること。（インターネット環境，機器，ソフトなどについて，受講者ご自身で整えていただきます）
4. 全研修期間を通じて，Zoom およびチャットツールによる意見交換，情報収集，成果報告などに積極的に参加すること。（同期型研修には，本名・カメラオンでご参加いただきます）
5. 日本語でのグループ活動，ディスカッション等の参加に支障がない程度の日本語力を有すること。
6. 参加にあたり，研修実施の妨げとなるような行為や言動を慎むこと。
7. 知的財産権，人格権（個人情報への守秘や肖像権への配慮等），研究倫理等について理解し，行動すること。

受講が決定しましたら，上記に関する同意書をご提出いただきます。なお，研修開始後，上記の条件を満たさないことが明らかになった場合，研修の継続をお断りさせていただくことがあります。

3. 修了判定

同期型研修と研修成果発表会への出席率 80%以上、および、課題提出率 80%以上を満たすことを前提に、60%以上の課題達成率を修了の要件とします。

修了判定の結果通知、および修了証の送付は3月下旬を予定しています。また、修了者には、文部科学省からオープンバッジが発行されます。

4. 応募方法

(1)参加申込

以下の URL にアクセスし、必要事項を記入してください。締切日までに複数回の応募申請があった場合は、最新の日付のものを有効とします。

<https://forms.gle/uYkjmgiYutUmGh3k7>

(上記のリンクをクリックしても Google フォームが開かない場合は、お使いのブラウザが最新版かどうかをご確認の上、リンクをコピーしてお試しください)

(2)事前課題

この研修で取り組みたい、ご自身の日々の教育活動・教育実践から生まれた課題について、以下の 1)～5) の質問に答える形で PDF ファイルを作成し、上記の URL からアップロードしてください(申込に関する情報入力完了後にアップロードが可能になります)。ファイル名は「JCN 中堅事前課題_氏名」としてください(例:「JCN 中堅事前課題_学会太郎」)。

研修参加が認められた場合、ここに書かれた課題を参考にチーム編成を行います。また、研修中はここに書かれた課題の検討・解決に取り組むことが求められます。

- 1) 本研修で取り組みたい課題のタイトルを具体的に書いてください。
- 2) 取り組みたい課題は、あなたのこれまでの教育活動・教育実践とどのように関わっていますか。300～400 字程度で説明してください。
- 3) その課題を解決するために、これまでどのようなことに取り組みましたか。200 字程度で説明してください。
- 4) その課題を解決するために、何が必要だと考えますか。200 字程度で説明してください。
- 5) 5) その課題を解決するために、この研修に期待することは何ですか。200 字程度で説明してください。

過去の修了生の課題については、ウェブサイト「中堅日本語教師のための研修プログラムの成果」(<https://www.nkg.or.jp/jcn-training/>)をご覧ください。

(3)応募締切:2026年6月22日(月) **16:59** (日本時間) ※時間にご注意ください。

5. 選考

提出された書類を審査し、2026年6月30日(火)までに電子メールにて受講の可否を通知します。選考料は無料です。

6. 受講料

受講料は、一人 20,000 円（オンラインツール使用料・教材費等を含む）です。

受講が決定したらメールでご連絡するので、指定日までに銀行振込にてお支払いください。あわせて、Ⅱ. 2. に記載した同意書をご提出いただきます。なお、遠隔による研修を受講する上で必要な環境の整備・通信費などは各自の負担となります。また、一度納入された受講料に対して、返金は認められません。

7. 注意事項

本研修は、文部科学省「現職日本語教員研修プログラム開発・実施事業普及事業 日本語教師【中堅】に対する研修」を日本語教育学会が受託して実施するものです。研修期間に作成した資料、成果物、オンラインツールでのやりとりなどは、他の受講生、アドバイザー、日本語教育学会が行う研修評価、研究活動等において利用・分析される場合があります。応募に際して取得した受講生の個人情報については、本研修の実施に関わる範囲においてのみ使用します。詳細は研修開始時に改めて説明します。なお、記録のため、同期型研修の様子を録画します。

8. 問い合わせ先

公益社団法人日本語教育学会 JCN 研修事務局
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会 2F
Tel: 03-3262-4291 E-mail: jcn_office@nkg.or.jp